

三菱自動車、新型『アウトランダー』のPHEVモデルを12月に発売 ～電動化技術と四輪制御技術の粋を集めたフラッグシップSUV～

三菱自動車工業株式会社（本社：東京都港区、代表執行役社長兼最高経営責任者：加藤 隆雄、以下三菱自動車）は、クロスオーバーSUV『アウトランダー』のプラグインハイブリッドEV（PHEV）モデルをフルモデルチェンジし、全国の系列販売会社を通じて12月16日（木）から販売を開始します。車両本体のメーカー希望小売価格は4,621,100円～5,320,700円（消費税10%込）。また、本日より発売に先駆けて先行注文を受付開始。発売までに注文いただいたお客様への特典として、4種類の「選べるオプションプレゼント」をご用意しています。さらに2022年3月31日までにご成約のうえご登録いただいたお客様を対象とした「充電設備設置費用サポートキャンペーン」も実施します。



新型『アウトランダー』PHEVモデル

『アウトランダー』は2001年に発売^{*1}した三菱自動車初のクロスオーバーSUVで、3世代にわたってグローバルに幅広く展開し、近年は販売台数の約2割を占めるコアモデルの一つとなっています。先代より設定したPHEVモデルは2013年に日本で発売した後、欧州、豪州、北米、そしてアセアンなどに順次展開し、累計で約29万台^{*2}を販売するなど、PHEVカテゴリーを牽引してきました。

*1…国内では『エアトレック』として発売

*2…2021年9月末時点

今回の新型『アウトランダー』PHEVモデルは以下の3点を特長としています。

- (1) 「より力強く」「より遠く」を実現した独自の新世代PHEVシステム
- (2) あらゆる天候や路面状況で安全・安心で快適な走り
- (3) 力強く存在感のあるエクステリアと上質で先進的なインテリア

当社社長の加藤 隆雄のコメント

「新型『アウトランダー』のPHEVモデルは、製造から使用、廃棄までのCO₂排出量が少なく環境負荷が低い、カーボンニュートラルの実現に向けた現在の最適解といえます。また、環境にやさしく気持ちのよい走りを実現する電動化技術、どんな天候や路面でも安全・安心で快適に楽しめる四輪制御技術で、お客様のカーライフ

がさらに楽しく充実したものになるよう、お手伝いができるものと思っています」

新型『アウトランダー』PHEV モデル スペシャルサイト

URL：https://www.mitsubishi-motors.co.jp/lineup/outlander_phev/special/

同サイトでは、オンライン発表会をはじめ様々なコンテンツを通じて新型『アウトランダー』PHEV モデルの魅力を紹介しています。

1. 商品概要

新型『アウトランダー』のPHEVモデルは、三菱自動車の電動化技術と四輪制御技術の粋を集め、アライアンスで開発した新世代のプラットフォームや先進技術を活用したフラッグシップモデルです。「威風堂堂」をコンセプトに、ボディやシャシー、パワートレインなどすべてを刷新し、全方位で大幅に進化させています。これらにより、力強い走りやゆとりある居住性と多彩な使い勝手といったSUVとしての魅力、力強く滑らかな加速とあらゆる走行状況で安全・安心な走りといった電動車としての魅力の双方を大幅に高めました。

グレード展開は、運転支援技術と予防安全技術を備えたベーシックな「M」（5人乗り）、20インチホイールやコネクティッド機能など充実装備の「G」（5人乗り/7人乗り）、上質な内外装とBOSEプレミアムサウンドシステムなどを標準装備した上級仕様の「P」（7人乗り）の3グレードとしています。

(1) 「より力強く」「より遠く」を実現した独自の新世代PHEVシステム

- ・電動車としての魅力をいっそう高めるためPHEVコンポーネントを刷新し、EV航続距離を延長、EVらしい加速感を向上させました。フロント及びリヤモーター、駆動用バッテリーの出力を約40%高めることで、アクセルを強く踏み込むシーンでも極力エンジンを始動せずにEV走行の維持を可能とし、高出力なツインモーター4WDならではの滑らかで力強く気持ちの良いモータードライブを実現しました。また、駆動用バッテリーは、総電力量を20kWhと大容量化し、EV走行換算距離（等価EVレンジ）を87km（WLTCモード）*3とすることで、エアコンなどを使用した場合でも十分な航続距離を確保、併せて充電頻度の低減にも貢献しています。また、ガソリンタンク容量を増大させ、EV走行とハイブリッド走行を組み合わせた総合航続可能距離も大幅に拡大しました。

*3・・・Mグレードでの数値。P及びGグレードでは83km

- ・フロントモーターのパワードライブユニットには昇圧機能を新採用しました。フロントモーターへの供給電圧を高めることで強力な駆動力を発揮し、同時にジェネレーターの発電効率も高めることで電費の低減にも貢献。また、リヤモーターとコントロールユニットを一体化することで、サードシート設置に必要なフロアスペースを確保し、7人乗りシートレイアウトを実現するとともに、ユニットの搭載位置をキャビン外側としたことで高周波ノイズをシャットアウトするなど、高い静粛性を実現しています。

- ・アクセルペダルだけの操作で加減速することができるイノベティブペダル オペレーションモードを新たに設定しました。減速時にブレーキペダルに踏み替える

必要がなく、アクセルペダル操作だけで適切な制動力がかかる^{*4}ため、ステアリング操作に集中でき、雪道などの滑りやすい路面などでの安心感を高めるほか、ブレーキペダルへの踏み替えが減ることで、疲労を軽減します。

*4…より強い減速が必要な時や停止させる時には、ブレーキペダル操作が必要です。

(2) あらゆる天候や路面状況で安全・安心で快適な走り

・前後それぞれに1基ずつ駆動用モーターを搭載するツインモーター4WDをベースとした車両運動統合制御システム S-AWC^{*5}に、新たに後輪側にもブレーキ AYC 機能を追加。これにより、前後輪の駆動力を路面状態や運転状況に応じて最適に配分しながら、左右輪のブレーキ制御によるトルクベクタリングも前後輪ですることができ、四輪全てのタイヤ能力をいっそうバランスよく、最大限に引き出すことが可能。それにより、ドライバーの思い通りのハンドリングと高い操縦安定性を実現します。

*5…Super-All Wheel Control

・路面状況や運転スタイルに応じて選択できる7つのドライブモードを設定。舗装路での通常走行に最適な NORMAL(ノーマル)を基本とし、乾燥舗装路でキビキビと加速するアクセルレスポンスと高い旋回性を発揮する TARMAC(ターマック)、未舗装路や濡れた舗装路での操縦性と走破性をバランスさせた GRAVEL(グラベル)、雪道などの滑りやすい路面で車両挙動を安定させる SNOW(スノー)、泥濘路や深雪路で車速に応じてタイヤのスリップ率を最適化することで高い走破性を実現し、スタック時に優れた脱出性を発揮する MUD(マッド)といった路面状況に応じたモードのほか、力強い加速が必要な場合の POWER(パワー)や、環境に優しく経済的な ECO(エコ)といった運転スタイルによるモードも設定しています。これら7つのドライブモードにより、様々な天候や路面で安全・安心で快適な走りを実現します。

・新開発のプラットフォームと高剛性な衝突安全強化ボディ RISE^{*6}によって、高次元の安全性と操縦安定性を実現。フロントボディ剛性とねじり剛性を大幅に高め、操縦安定性の向上に大きく貢献したほか、従来の鋼板強度を超える三菱自動車初のホットスタンプ式超高張力鋼板(1470MPa)をキャビン回りに採用し、変形の少ない高耐力キャビン構造としました。また衝突リスクを複数のセンサーで事前に検知し、安全なドライビングをサポートする最新の運転支援機能「e-Assist」の採用により、事故の危険を最小限に抑え安全・安心を提供します。

*6…Reinforced Impact Safety Evolution

・進化した高速道路 同一車線運転支援機能「MI-PILOT」を搭載。「レーダークルーズコントロールシステム[ACC]」と「車線維持支援機能[LKA]」を統合したこの制御は、車間距離と車線中央をキープしながら走行することで運転をサポートします。また、速度標識を認識し設定速度を自動で切り替えるほか、ナビリンク機能による地図情報を活用した、高速道路のカーブや分岐などで適切な車速に自動で調整。渋滞時でも停車後約30秒以内の自動発進を実現するなど、高速道路の長距離走行や渋滞時の疲労を低減します。

・安全・安心で快適なドライブをサポートする「MITSUBISHI CONNECT」を採用。万が一の際の SOS コールや、駆動用バッテリーの走行可能距離の確認、

充電時刻の設定や充電し忘れ通報、そして車両を駐車した位置をスマートフォンアプリの地図に表示させて自車位置の確認などができます。また、車両の運転状況を通知するドライブ見守り通知機能も採用しました。

(3) 力強く存在感のあるエクステリアと上質で先進的なインテリア

・新型『アウトランダー』では、機能美を力強く表現した三菱自動車独自の SUV デザインをベースに、新たなコンセプト「BOLD STRIDE (ボールド・ストライド)」を掲げ、堂々とした存在感のある佇まい、大地を踏みしめる力強さ、新しい一歩を踏み出す頼もしさを全身で表現しています。

・エクステリアでは、「DYNAMIC SHIELD (ダイナミック・シールド)」を新世代化させ、存在感のあるフロントデザインとしました。また、サイドでは 20 インチの大径ホイール、それを包み込む筋肉質なフェンダーフレアを採用し、飛行機の垂直尾翼をモチーフとした D ピラーとフローティングルーフによって、力強く軽快な走りをイメージさせています。また、リアでは六角形の形状をもつテールゲートと、水平基調でボディの左右両端まで広がるテールランプなどにより、ワイドで安定感のあるスタイリングとしています。ボディカラーは、硬質で高輝度かつ鮮明なダイヤモンドカラーシリーズとして、ホワイトダイヤモンド、レッドダイヤモンド、そして本モデルで新たに追加するブラックダイヤモンドの 3 色を中心に全 10 色の設定としました。

・インテリアでは、走行時の車体姿勢の変化をつかみやすい水平基調で力強い造形のインストルメントパネル「HORIZONTAL AXIS (ホリゾンタル・アクシス)」を進化させて採用し、芯が通った力強さと開放感を表現しました。フロアコンソールは幅広で存在感があり高級感のあるデザインとしています。また、触感がよく質感の高いソフトパッドを随所に採用したほか、ステッチをあしらうなど上質感にもこだわりました。モニターやメーターは視認性に、セレクター、ダイヤル、スイッチ類は操作時の節度感にこだわった「MITSUBISHI TOUCH (三菱タッチ)」という考え方に基づいてデザインし、視覚だけでなく触覚にも訴える上質さを実現しています。

2. メーカー希望小売価格

(リサイクル料金、保険料、消費税を除く税金、登録等に伴う費用は含まれません)

グレード		エンジン	駆動方式	車両本体価格 (消費税 10%込)	(参考)令和 3 年度 クリーンエネルギー 自動車導入事業費補助金
M	5人乗り	2.4L MIVEC DOHC 16バルブ 4気筒	ツイン モーター 4WD	4,621,100 円	201,000 円
G	5人乗り			4,904,900 円	191,000 円
	7人乗り			4,996,200 円	
P	7人乗り			5,320,700 円	
エコカー減税			重量税免税(100%減税)		

新型『アウトランダー』PHEVモデルの車種サイトはこちら
https://www.mitsubishi-motors.co.jp/lineup/outlander_phev/index.html

以上